京都精華大学
'82 大学案内
男女共学
京都精華大学
〒606
京都市左京区岩倉木野町一三七
TEL〇七五-七九一-六一三一

服装の流行をめぐってよくいわれることに、次のようなのがある。

若者が流行の先端をゆくというわけで奇抜な服装を身につける。しかし、それでたいへん個性的かというと、流行という流れに身をまかせているのだからちっとも個性的ではない。結局、一種の順応的現象に過ぎないと。

文句をつけようと思えば、どんなことでも文句はつくものであり、この意見もそのひとつといえないこともない。結局は、若者の服装の奇抜さに我慢できない腹立ちまぎれの文句とも受けとられるからである。

ところが、やや別の視点から眺めてみるならば、この意見はたいへんまともなことに触れていると思う。それは個性と普遍的のぶつかり合いという問題である。奇抜な服装を身につけようという気持の土台には、間違いなく個性的でありたいという欲求が働らいている。しかし、他方、それが流行の服装であるなら、それは皆と同じでありたいからという願望が働らいている。先程の意見は、始めの個性的でありたいという気持の方には眼を閉じて、あとの皆と同じでありたいということの方だけをとりあげて、順応的といういい方で批判しているのである。

しかし、私はこの個性的でありたいという気持の方に注目する。たかが服装ではないかというかもしれないけれど、それとて個性的でありたいという気持がつまらないということにはならない。個性的であることは、じつはたいへんむづかしいのである。

個性的というのは、自分の書く字のくせと他人のそれとがちがうというようなことではない。それは、ひとりひとりの顔かたちがちがうというのと同じようなことがらであって、それをことさら個性的などとおおげさという必要はあるまい。無くて七癖というが、ひとはひとりひとりちがうといっても間違ってはいないからである。しかし、世間ではこのひとりひとり違うという意味での個性のことばかりを重視し過ぎるのではないだろうか。子供の頃はひとりひとりのちがいがはっきりしていたのに、段々それが失なってしまうというような指摘も、そういう意味での個性に触れた発言といえよう。

個性というのは画一性に対置されるものだと思う。画一性というのは誰もが同一の型にはめられるということだが、いいかえればそれはひとりひとりの思考力や想像力を同一方向にワクづけてしまうということである。画一的ということばは、そうした説明をしなくても、なんとなく好ましくないことばだとして受けとることができるかもしれない。それなら、美の普遍性ということはどうだろう。美は普遍的なのだ、それは誰にも共通して受けいれることのできるものだという考えは、画一的ということと無関係だろうか。それは美を画一的に考えることではないだろうか。

それに対して、果してそうかなと考えること、これが個性的ということのはじまりだと思う。個性的な芸術家というのは、そういう点で個性的なのであって、それ以外ではないと思う。むろん、ことがらは芸術家だけに限られることではない。誰にとっても個性的であるというのは、一見あたり前とされていることを、それは思考力や想像力の画一化ではないのかとチェックする態度や生き方のことである。芸術家は表現という行為が一般のひとびとより大きいので、個性的というのがより強くクローズアップされるだけのちがいである。社会秩序のアウトサイダーとしての芸術家というイメージがうまれたのは、それに由来している。

大学というのもまた、この個性と画一化のせめぎ合いの場である。教育というのはその底に画一化を秘めている行為であることを否定できない。それは多くの学生に同一のことを教えるということがあるからそうだというだけでなく、教員は自分の考えるところを、より多くのものに伝えたいという願望を抱いているだろうからである。そして他方で、学生に個性的であれということは、教員が自分の考えるところもまたそうかなと検討されチェックされることを認めなければならないということである。それは学生同士においても変るまい。

自由というのは、この画一化に対する個性的という努力によって得られるものであろう。私は本学のモットーである自由はそういう意味での自由であり、それがそのまま人間の形成を意味するものだと考えている。つまり、大学という場を通じて、学生ひとりひとりが自ら人間の自由な思考力や想像力をつくってゆくということである。われわれの大学で個性を深めてゆくことに、新しい学生諸君が参加することを心から歓迎したいと思う。

学長／江戸頌昌

学科課程概要

もくじ

3 一般教育
6 図書館
8 短期大学部・英語英文科
18 美術学部
28 美術展
30 アッセンブリー・アワー
32 学寮
34 卒業後の進路
36 キャンパスライフ
37 朽木学舎
44 教員組織
46 教職員紹介
表6 大学への交通案内

一般教育

大学教育におけるカリキュラム中には、「一般教育」と呼ばれる科目群が用意されている。「一般教育」という言葉には、はっきりとした定義があるわけでもなく、「専門教育」と対になる漠としたものであって、「基礎教育」という意味にも使われることがある。専門科目を学習するための基礎という意味なのであろう。しかし、一般教育はそのことにとどまらず、民主々義社会の一員たるにふさわしい人間性と見識を深めるため、狭い専門の殻に閉じ込もることなく学習する点にも、その意義があると考えられている。

高度に物質文明の発達した今日、多くの事項が素人の接近を許さず、専門家およびその集団の独占的管理と支配下におかれる傾向を強めており、そのことは民主々義にとって脅威となりつつあるとさえ言われるようになっている。このような社会状況の中にあって、より広い視野に立ち、人間性豊かな、批判的創造的人格の確立は強く望まれるところである。

一般教育は人文科学、社会科学、自然科学の三分野からなり、広義には、それらに外国語および保健体育の各分野を含めている。一般教育の目的からも理解されるように、三分野の講義を羅列して、一方的に授業が行われるというようであってはならないと考えられている。学生の人間性の調和ある発展や、主体的に人生に対処しうる人格形成に役立つよう、一般教育のあり方、内容について研究し、工夫を重ねてきている。

その結果、三分野ともテーマ主義をとり、各テーマのもと、学生とともに考えつつ学ぶといった講義形式をとっている。各分野について、そのテーマをあげると、

人文科学系
ルネッサンスにおけるヒューマニズム
人間の生き方
うわさ・デマ・煽動　など

社会科学系
人間の自由と政治
現代の国際関係
法を考える　など

自然科学系
科学技術の成立と人間生活
いのちとくらしと水
動物の行動と生態」など。

混合教育　われわれの大学は四年制の美術学部と二年制の英語英文科よりなる最少単位の総合大学である。マンモス大学と異なり、専門分科の枠にとらわれぬ総合性を実現しやすい有利さがあり、それを具体化するものの一つとして、美術の学生も英文の学生もともに一つの教室で机を並べて学んでいる。異質な要素を多面的につき合せることにより、一般教育の目的に一層ふさわしいものとなると考えられるからである。

小人数特別クラス　教員と学生とのより密なる人間的ふれ合いを下に、特定のテーマについて、学生の自発生・創造性を発揮できる小人数クラスを設けている。一方的講義というよりは、研究活動的要素の加わった相互啓発の場となっている。自由選択ではあるが、クラスの性格上、人数は十人から三十人位に制限されている。八一年度に開講されたテーマをあげると、(人文科学系)「福祉を考える」「美術とその意味―絵画の見方」「近代日本の宗教者」「パスカル研究」(社会科学系)「現代の国際関係」「性、戸籍、市民権、国籍」「私たちにとってのジャーナリズム」「教育の意味を問いなおそう」(自然科学系)「自然と生命と農」「天文学」などである。

以上のほかに、保健理論と体育実技があり、広い国際性を培うためにフランス語などの外国語科目がある。とくに、朝鮮語はアジアへの関心を育てるために大切で、全国でも例の少い朝鮮語講座を開講している。

「自然と生命と農」

教職課程

教育原理	2単位
教育心理学	2単位
教育社会学	2単位
道徳教育の研究	2単位
教科教育法	2単位
教育実習	2単位

●上記の科目を含めて、必要な単位を履修した者には中学校2級普通免許状(英語)が与えられる。

教育原理	4単位
教育心理学	4単位
教育史	2単位
教育社会学	2単位
道徳教育の研究	2単位
教科教育法	4単位
教育実習	2単位

●上記の科目を含めて必要な単位を履修した者には中学校1級・高等学校2級(美術)普通免許状が与えられる。

1931
美術展 （京都市美術館）